**英語学・英語教育学　3大学合同卒論中間発表会（Zoom）**

下記の通り、名古屋市立大学・三重大学・南山大学の英語学・英語教育学関連の合同卒業論文中間発表会を開催します。興味のある方は、自由にご参加ください（部分参加可）。

日木満（名古屋市立大学）

中川右也（三重大学）

今井隆夫（南山大学）

記

日時：　2022年8月 10日（水）、11日（木）　両日とも10:00-16:00

Zoom情報：トピック：３大学合同卒論中間発表会（英語学・英語教育学）https://us02web.zoom.us/j/88437827559

ミーティングID: 884 3782 7559

パスコード: 282944

※Zoom入室の際の「名前」は以下のようにお願いします。

大学生：　　　　　〇〇大〇年 氏名　　　　　（例：名市大4年 日木満）

教員：　　　　　　〇〇大/高校/中学教員 氏名（例：名市大教員 日木満）

卒業生：　　　　　〇〇大卒業生 氏名　　　　（例：名市大卒業生 日木満）

一般（その他）：　一般 氏名　　　　　　　　（例：一般 日木満）

※発表部分については録画をします。

問い合わせ先：名古屋市立大学　日木満（hiki@hum.nagoya-cu.ac.jp）

お願い：学生の発表を聞かれた方は、是非、その学生への感想等をGoogleフォームで送ってください。

下記のURLかQRにアクセスして下さい。　　　　　　　　　　1日目(8月10日)　　2日目(8月11日)

1日目(8月10日)：https://forms.gle/b3Y7M4Gcji3vy8D59

2日目(8月11日)：https://forms.gle/ixGzYdEYrc9YAh3B8

**プログラム**

※発表者1人持ち時間20分（目安：発表10分、質疑応答９分、入れ替わり時間１分）

**【１日目】2022年8月 10日（水）10:00-16:00**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 発表# | 氏名（大学） | 卒論題目 |
| 10:05 | 発表1 | （三重大）別所雅也 | 比喩から考えるgo to 表現 |
| 10:25 | 発表2 | （三重大）小寺賢也 | asのコアイメージの確立 |
| 10:45 | 発表3 | （三重大）内田ひまり | 第二言語としての英語語彙習得方法と記憶定着度の関係 |
| 11:05　休憩・時間調整（10分） |
| 11:15 | 発表4 | （南山大）山守雛代 | 日英語の丁寧表現を言語学的・文化的に見た相違点と共通点Similarities and Differences in making sentences polite between English and Japanese  |
| 11:35 | 発表5 | （南山大）根本峻佑 | 日本でみられる英語表記における誤りCommon mistakes observed on English signs in Japan |
| 11:55　昼休み（60分） |
| 13:00 | 発表6 | （南山大）村松彩夏 | 日英語の漫画における主語言及の方法の違いThe difference in the way of referring to subjects between Japanese and English comics |
| 13:20 | 発表7 | （南山大）岡 凌希 | 日本の英語教育における冠詞の教え方に起因する間違いCommon Errors in articles caused by English education in Japan. |
| 13:40 | 発表8 | （南山大）杉浦菜々子 | アメリカ英語とイギリス英語の違いDifferences between American English and British English. |
| 14:00　休憩・時間調整（10分） |
| 14:10 | 発表9 | （南山大）松下五波 | ディズニーソングにおける英語と日本語の表現の違いThe difference of expressions in Disney songs between English and Japanese |
| 14:30 | 発表10 | （南山大）川嶋怜奈 | 認知言語学的側面から見る字幕映画の難しさThe difficulty of the subtitled film in terms of cognitive language |
| 14:50 | 参加者コメント、教員講評（30分） |
| 15:20 | 学生の交流会（40分）　ホスト（名市大） |
| 16:00 | 終了 |

**【２日目】2022年8月 11日（木）10:00-16:00**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 発表# | 氏名（大学） | 卒論題目 |
| 10:05 | 発表11 | （南山大）吉田茉央 | 英語の丁寧表現Polite expressions in English |
| 10:25 | 発表12 | （南山大）前岨天満 | 鉄道の案内からみる、日英語の視点の違いDifferences in Japanese and English perspectives from railroad guidance |
| 10:45 | 発表13 | （南山大）中野 瞳 | CTR理論と認知言語学理論から見る日英語の違い：スマートフォンの言語表示分析を通してThe difference between Japanese and English in terms of CTR theory and Cognitive Linguistics: A case study on expressions used in the smartphone applications. |
| 11:05　休憩・時間調整（10分） |
| 11:15 | 発表14 | （南山大）鯉江桃花 | 「塔の上のラプンツェル」の字幕比較から見た、日英語の認知様式の違いConstrual differences between Japanese and English based on the subtitles comparison in “Tangled” |
| 11:35 | 発表15 | （南山大）庄司椋哉 | イディオム表現と句動詞の百科事典的意味記述 ー英語学習者が等価表現を使い分けるためにーDescriptions of Encyclopedic Knowledges of Idioms and Phrasal Verbs -For English Learners to Make a Distinction between Equivalent Expressions- |
| 11:55　昼休み（60分） |
| 13:00 | 発表16 | （南山大）桂山めぐ | 日英語の対応表現をCTRの視点から分析するAnalyzing the Equivalent Expressions of Japanese and English from the Perspective of CTR |
| 13:20 | 発表17 | （名市大）伊藤緋奈子 | 動詞からの「ゼロ派生名詞」と「V-ing名詞」の語義・語法の比較研究：fight vs. fightingとその類例 |
| 13:40 | 発表18 | （名市大）梅田夏希 | 「to不定詞」と「動名詞を伴う前置詞句」の比較研究：“key to understand X”と “key to understanding X”の違いは何か |
| 14:00　休憩・時間調整（10分） |
| 14:10 | 発表19 | （名市大）金森あかね | 訳出しにくい動詞Supposeのコアイメージ研究：社会言語学的見地から |
| 14:30 | 発表20 | （名市大）斎藤暖奈 | 前/後を意味する英語表現の複雑性を理解するための視覚的考察 |
| 14:50 | 参加者コメント、教員講評（30分） |
| 15:20 | テーマ別交流会※（40分） |
| 16:00 | 終了 |

**※テーマ別交流会**について

* ３大学の教員がテーマ別にブレイクアウトルーム（１～３）を開設して皆さんと交流の場（ミニ講義や質問会）を持ちます。
* ブレイクアウトルームで「参加者によるルーム選択を許可」しますので、普段指導を受けていない他大学の教員のルームに入ってください。
* 前半（20分）と後半（20分）では違うルームに入ってください。（例：名市大生のNさんは前半はルーム１に入り、三重大・中川先生の「文献の探し方」に参加し、後半は（15:40頃）ルーム２に移動し、南山大・今井先生の「ことばの不思議を探る」に参加。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ブレイクアウトルーム | 教員（テーマ） | 前半(15:20～15:38) | 後半(15:40～16:00) |
| ルーム１ | 三重大・中川（文献の探し方） | 南山大生と名市大生 | 南山大生と名市大生 |
| ルーム２ | 南山大・今井（ことばの不思議を探る） | 三重大生と名市大生 | 三重大生と名市大生 |
| ルーム３ | 名市大・日木（日木に質問） | 三重大生と南山大 | 三重大生と南山大 |

**要旨**

【発表１】別所雅也（三重大）

**比喩から考えるgo to 表現**

本研究では、go toに続く語の研究を進め、karaokeのような場所を指さない語が続く論理を確立することを目的とした。go to karaokeが可能でgo to rice(「ご飯に行こう」の直訳)が不可能な理由として、「ご飯」と“rice”の指すニュアンスの範囲が異なるという仮説を立てた。はじめに、コーパスを用いて実際に使われているgo to表現を抽出し、使用されている語を特徴ごとに分類した。次に、比喩表現の分類を行い、どのような条件下で語の置き換えによる比喩が可能なのかが分かった。前置詞toも同時に研究しており、その中で出てきたaspectに基づく動詞の分類も行った。今後は、語の指すニュアンスの範囲の成立背景を研究し、動詞と語の相性を、比喩の観点から整理していく。

【発表2】小寺賢也（三重大）

**asのコアイメージの確立**

本研究では、asの多義性を鑑みasのコアイメージを確立することを目的とする。そのために、asをそれぞれの用法で分け、その用法ごとにどのような意味があるかを調査する。OEDによるとasには大きく3つの用法、①副詞のas、②関係詞のas、③接続詞のasがある。現在本研究は、③接続詞のasを研究中である。接続詞のasについて、時を表すas、理由を表すas、倒置のasについて研究を進めており、今現在倒置のasを研究中である。倒置のasは譲歩の意味を持っており、倒置のasが使われている文の直前の文を踏まえていることが特徴である。これはゲシュタルト心理学から考えられたGbFモデルに基づいた考え方である。GbFモデルは図（Figure）地（Ground）となるはずの文において、地（Ground）を先に言及し、その後図（Figure）について述べるモデルである。このモデルを用いることによって、受け手としては図（Figure）を容易に特定できる効果がある。現在、倒置のasがこのGbFモデルに合っている例を調査中であり、今後はGbFモデルにそぐわない倒置のasについて調査し、その他の用法の多義性について研究を進めていく。

【発表3】内田ひまり（三重大）

**第二言語としての英語語彙習得方法と記憶定着度の関係**

本研究では、第二言語としての英語の語彙習得時において、学習方法と記憶定着率との関係を明らかにすることを目的とする。特に、語彙学習時の書き写しの有無と発音の有無による定着率を比較し、英語学習者にとって最も効果的な語彙学習方法を探る。そのために、第一に先行研究として記憶と想起のメカニズムについて調べた。Baddeley が提唱した記憶の新モデルでは、情報の一時的な保持と処理を実行する WM（ワーキングメモリ）と⻑期記憶との相互作用を行うエピソードバッファという機能が提案されている。さらに、記憶の中でも特に各語彙情報に対する検索過程に関する研究では、語彙の意味情報と音声情報に比べて文字情報へのアクセスは困難なものであることが分かった。語彙の書き写し学習の有効性については立場が分かれている。ある研究では、学習時の負荷が増えると符号化に本来必要な処理能力が消耗されてしまうとする一方で、視覚的記憶に運動的記憶が加わり記憶強化につながるとする研究もある。ここで、書き写しの有効性には被験者の年齢も関係していると考えた。今後の研究では英語学習者の認知能力を考慮した上で、特定の発達段階と書き写しや発音学習という学習方法の有効性との関係性を明らかにしていく。

【発表4】山守雛代（南山大）

**日英語の丁寧表現を言語学的・文化的に見た相違点と共通点**

**Similarities and Differences in making sentences polite between English and Japanese**

日本語と英語の丁寧表現における相違点・共通点を認知言語学的、文化的アプローチにより明らかにする。 例えば、英語の過去形には人との距離（psychological distance）を図る意味が存在し、canよりcould、willよりwouldのように過去形にすることでより丁寧な文にすることができる。日本語では「○○はよろしいでしょうか」より、「○○はよろしかったでしょうか」と過去形にすることで丁寧にすることができる。つまり英語と日本語には過去形にすることで丁寧な言葉遣いになるという共通点がある。一方で日本語には「聞く」が「伺う・お聞きになる」となるように単語それぞれに尊敬語・謙譲語があるのに対し、英語には区別が存在しない、この点が相違点となる。文化的には、松本先生のへりくだりを美徳とする「謙遜志向」の日本人と対等であろうとするアメリカの「対等志向」の考え方を踏まえながら、アンケートをもとに、丁寧表現をどこまで意識して使うか、誰に対して使うかを調査する。 参考資料：アンケート：各国の英語母語話者・日本人学生、店員の言葉遣い、YouTube 、映画、Hinds先生、松本先生、池上嘉彦先生の教材、他丁寧表現や日本語と英語の感覚の違いに関する論文や本 課題：文化的アプローチと言語学的アプローチのどちらに焦点を絞ってまとめるか、両方をバランスよくアンケートを取り、書ききれるか。国によって丁寧表現の捉え方が違うため、どこまで国を広くみるか、また国を絞った方が日本との違いがわかりやすいか。

【発表5】根本峻佑（南山大）

**日本でみられる英語表記における誤り**

**Common mistakes observed on English signs in Japan**

日本ではグローバル化による外国人の流入に伴い、駅や街中などでの看板の多くに英語表記が併記されるようになった。しかし、その多くは文法上の誤りを含んでいる場合や、英語が冗長になっておりすぐに理解されないことが多い。これは、日本語を英語と完全に置き換えが可能であるという誤解にあり、これは日本における英語教育によるものであると私は考える。そこで、実際に収集したデータから浮かぶ誤りにおける共通点を見出し、その問題点や改善策などを考察する。

【発表6】村松彩夏（南山大）

**日英語の漫画における主語言及の方法の違い**

**The difference in the way of referring to subjects between Japanese and English comics**

なぜ、英語で自己紹介を行う時に、こんなにもたくさん『I』を言及しなければいけないのだろう、という自身の疑問から、漫画における主語の言及の違い(日本語の方が言及しないことが多いのではないかという仮説)をPerson focus と Situation focus の違いの観点から考察する。 また、自身の問いと同様の問いを抱く日本人英語学習者の有無を調査し、英語学習において、日英語の文化的な違いからアプローチする必要性を考察する

【発表7】岡 凌希（南山大）

**日本の英語教育における冠詞の教え方に起因する間違い**

**Common Errors in articles caused by English education in Japan.**

冠詞は日本語にない表現であり、英語を学ぶにあたって一つの壁になる要素である。その冠詞が日本の学校英語教育ではどのように教えられているのか、それは実際の冠詞の使用法を反映しているのかを研究する。私が気になる冠詞を用いた英語表現や日本人英語学習者が間違えがちな表現をネイティブ話者と日本人生徒両方からアンケートを取りデータを集める。

【発表8】杉浦菜々子（南山大）

**アメリカ英語とイギリス英語の違い**

**Differences between American English and British English.**

アメリカ英語とイギリス英語の違いについて、次の3点を考察し、イギリス英語とアメリカ英語ではどのような傾向があるのかを探る。①アメリカ英語とイギリス英語がどのように違うようになっていったのか、②イギリス英語とアメリカ英語で使われる文法に違いが生じるのはなぜか、なぜそのようになったのか、③単語の綴り、使われる単語が違うのはなぜか。

【発表9】松下五波（南山大）

**ディズニーソングにおける英語と日本語の表現の違い**

**The difference of expressions in Disney songs between English and Japanese**

ディズニーソングの英語と日本語の歌詞を比較することで、日本語、英語の文化的違いから起こる表現の違い（虫の視点と神の視点、シチュエーションフォーカスとパーソンフォーカスなど）が実際に現れているかを調査する

【発表10】川嶋怜奈（南山大）

**認知言語学的側面から見る字幕映画の難しさ**

**The difficulty of the subtitled film in terms of cognitive language**

洋画における実際のセリフと日本語字幕の違いに着目し、認知言語学的視点からその違いが生まれる理由・翻訳者の意図と苦悩について考察したいです。また、洋画を日本語字幕のみで全て理解することはほぼ不可能だと考えますが、実際に理解が難しく感じた経験があるかどうかも調査し、どう理解の差を軽減できるかまで考えを深めたいです。

【発表11】吉田茉央（南山大）

**英語の丁寧表現**

**Polite expressions in English**

日英の丁寧表現の対比について、英語では過去形による相手との距離のコアイメージによって丁寧さを表現し、日本語でもそういった遠回しに表現することで丁寧さを表現するものと独特の尊敬語・謙譲語の表現があり、これらを認知言語学の観点から考察し、また、宗教に関連した表現の差異について文化的背景による研究をする。ネイティブへのアンケートを行うことにより人々の丁寧表現に対する意識から考察していく

【発表12】前岨天満（南山大）

**鉄道の案内からみる、日英語の視点の違い**

**Differences in Japanese and English perspectives from railroad guidance**

日々何気なく利用している鉄道でも、日本語と英語の案内では大きな差があります。視点に着目して解説します。

【発表13】中野 瞳（南山大）

**CTR理論と認知言語学理論から見る日英語の違い：映画の分析を通して**

**The analysis of the differences of Japanese and English films in terms of CTR theory and Cognitive Linguistics**

CTR理論と認知言語学の理論を利用して映画を分析し、英語と日本語の表現方法や文法の違いを考察する。そこから日本の英語教育や現代のグローバル化の改善点について言及していく。

【発表14】鯉江桃花（南山大1）

**「塔の上のラプンツェル」の字幕比較から見た、日英語の認知様式の違い**

**Construal differences between Japanese and English based on the subtitles comparison in “Tangled”**

ディズニー映画「塔の上のラプンツェル」の字幕比較を【虫の視点・神の視点】【BE言語・HAVE言語】【situation focus ・person focus】【人間主語・無生物主語】の4軸から行い、各認知様式がどのくらいの割合で使われているのか調査を行う。また調査結果を、認知言語学的視点から映画を活用した効果的な教育法に関する提案に繋げる。

【発表15】庄司椋哉（南山大）

**イディオム表現と句動詞の百科事典的意味記述 ー英語学習者が等価表現を使い分けるためにー**

**Descriptions of Encyclopedic Knowledges of Idioms and Phrasal Verbs**

**-For English Learners to Make a Distinction between Equivalent Expressions-**

本研究は英語学習者が等価表現を使い分けるための目印を百科事典的意味の記述を通して示すことを目的としている。 研究背景は私自身が使い分けに困った経験があるということと、せっかくイディオム表現や句動詞を用いても、適切な文脈で適切な表現を使わないとかえって不自然になってしまうため、表現間の決定的な違いを明らかにして、自然な英語を使えるようになりたいからである。 扱う表現の例は、おおかた「即興でする」を意味するimprovise, wing it, make it up as one goes along, play it by earである。

【発表16】桂山めぐ（南山大）

**日英語の対応表現をCTRの視点から分析する**

**Analyzing the Equivalent Expressions of Japanese and English from the Perspective of CTR**

松本青也（2014）「日米文化の特質」にあるCTR(文化変形規則)を先行研究にして、手紙やメール、店頭での接客など、日常生活の中で頻繁に用いられる日英語の「決まり文句」的な表現を分析します。例として、メールの「best regards」と「敬具」や「よろしくお願いします」、接客時の「いらっしゃいませ」と「how are you?」などが挙げられます。

【発表17】伊藤緋奈子（名市大）

**動詞からの「ゼロ派生名詞」と「V-ing名詞」の語義・語法の比較研究：fight vs. fightingとその類例**

動詞からの「ゼロ派生名詞」と「V-ing名詞」の2つの派生名詞において、どんな違いや使い分けが存在するのか。「ゼロ派生名詞」と「V-ing名詞」のそれぞれを使うことに、どのような効果があるのか明らかにしたい。

接尾辞を加えて派生した名詞の多くの場合、例えば接尾辞 -erが付くものは「人・物」、-ant, -entが付くものは「人」のように、派生語の意味を推測することは容易である。しかし、動詞から派生した「ゼロ派生名詞」と「V-ing名詞」の指す意味を推測することは容易でないと考える。したがって、「ゼロ派生名詞」と「V-ing名詞」の派生の複雑さをfight/fighting、open/opening、cook/cooking、find/finding等の例を挙げて説明するとともに、この研究の必要性を提示したい。

【発表18】梅田夏希（名市大）

**「to不定詞」と「動名詞を伴う前置詞句」の比較研究：**

**“key to understand X”と “key to understanding X”の違いは何か**

私はLearning the language is key to ( ) the culture. <ランダムハウス英和大辞典(第2版)>という例文を見たとき、( )には”understand”が入り、to不定詞になると考えていた。しかし、実際には “understanding”で、to+動名詞になっていた。私はこのような用法があることがあることを今まで知らず、なぜto不定詞ではなく動名詞になるのか疑問に思った。この2つはどちらも日本語で「VするN」と訳したくなる構文であり両者の違いは曖昧だが、実は違いがあることに気づいた。

　現在の仮説としては、Nの役割と、(to)V/V-ingの役割に違いがあると考える。[N to V]構文では、to Vはto不定詞の形容詞的用法で、Nは前置詞の目的語である。そして、文中での役割は、N=道具、V=Nを使うとできることと考えられる。一方、[N to V-ing]構文は、toは前置詞で、動名詞を伴う前置詞句である。文中での役割は、V-ing=目標、N=道具ではない非存在物であると考えられる。

【発表19】金森あかね（名市大）

**訳出しにくい動詞Supposeのコアイメージ研究：社会言語学的見地から**

Supposeという動詞は、一見thinkやguessなどの動詞と同様に訳出できるように見えて、その実意味しているところが判然としない、現状とても曖昧な語である。

本研究で着目するのは特に会話表現に多くみられる用法で、例えば、

“Can I borrow your car?”

“I suppose so.” (= actually don’t want to)

という会話があるとする。このとき答えた側は尋ねた側の依頼を了承してはいるが、実際には気が進まない、というニュアンスが含まれている。括弧内を省き文面のみを見て訳したのでは、こうした含意は一切読み取ることができない。

どの辞書のSupposeの項にもこのような複数記載・補足されていることから、Supposeの語義のコアイメージ、すなわちSupposeという語の根底にある概念を定義する手がかりになると考える。

【発表20】斎藤暖奈（名市大）

**前/後を意味する英語表現の複雑性を理解するための視覚的考察**

「前」を意味する英語表現は主にbefore, in front of, ahead ofの3つが考えられる。一般的に、時系列に関してはbeforeで、物体の位置関係はin front ofで、基準からの差はahead ofで表す、という風に使い分けることが知られているが、それだけでは不十分ではないだろうか。例えば、「列に並んでいる人が私の前に4人いた」と言うときの「前」はbefore, in front of, ahead ofのいずれを使っても表すことができる。これについてはどのような説明ができるか。それぞれの意味範囲は完全に分かれているという訳ではなく、重なる部分が存在するのである。

このように複雑に絡み合う前後関係についての英語表現をより正確に捉えるための1つの方法として、私は図視することを提案したい。これにより、私たちは前後関係を多面的に考えることができるようになるはずだ。